

# アクティブ・ラーニングによる主体的学びの向上とディプロマ・ポリシー達成度の可視化

京都光華女子大学短期大学部

清中美羽・大野瑞穂・中藪麗・三浦琳香・相場浩和・鹿島我・溝口侑

## 1 アクティブ・ラーニング (AL) の活性化

本学の学生の成長を支える科目の1つが、「社会人基礎力を育成する授業30選」にも選定された1年前期の必修科目「プレゼンテーション演習」である。本科目では積極的にALを導入し、前半では「プレゼン嫌いの克服」、後半では「グループプレゼンスキルの習得」を目指し、最終的には外部審査員を招いた本格的なプレゼン大会を行う。本科目ではスチューデント・アシスタントの役割が大きい。

究極のALとして力を入れているのが「学生提案型授業」と呼んでいる一連の授業である。「学生が地域と結びつくことこそが一番の地域おこし」という学生の提案によって始まった「学生が創る『地域』」、学生自らが講師として授業を行う「学生が創る『学び』」、さらにはシラバスの学生公募を制度化した「ライフ創彩」がある。

学生の自己教育の場として正課外活動も重視している。特に、全学生へのアクティビティの波及効果を目指して結成されたのが学生リーダー組織「D\*Light」である。新入生研修やオープンキャンパスや本学独自のマンスリーイベントでの学生スタッフ等の学科イベントのサポートはもちろん、独自の講演会も開催している。また、京都市水道局（足湯イベント）、京都市消防局（女性消防士増加キャンペーン）、京都府公衆浴場業生活衛生同業組合（利用者増加キャンペーン）など地域や自治体とのコラボも積極的に行っている。さらに、「学生FDサミット」や「短大フォーラム」などの他学の学生・教職員との交流は、活動の節目のイベントとして位置付けている。特に、2018年8月、学生FDサミット10年の歴史の中で初となる女子大、短大での開催をやりとげた活動は特筆に値する。

## 2 ディプロマ・ポリシー (DP) の達成度の可視化

本学では、DPの達成度の可視化を分析的評価、全体的評価の両面から行っている。

科目の素点ではなく、科目の到達目標の達成度を基礎的指標として採用した。カリキュラム・マップを基に、これをDPに集約する(図1)ことでDP達成度の可視化を行うシステムであるMe-L(ミーエル)を開発した。Me-Lは可視化の1つの標準的到達点を示すものである。

作成した目標・評価体系の妥当性を検証し、PDCAを回すことは難問であるが、本学では「DPの各項目が独立した目標として機能していること」を妥当性の基準とした。これは、Me-Lの出力を用いた各DPの達成度間の相関係数の算出によって可能になった。これを基に実際に見直しを行っている。

Me-Lは、(分析的手法による)数値としてDPの達成度を評価できるという点で有効であるが、学生の成長を全体的に捉えるという点で十分ではない。そこで、DPを要素に還元せず全体的に評価する方法も採用した。学生自身がDPの達成に関連するエビデンスを収集・編集・発表し、それを評価するという仕組みである。また、こうした分析的評価と全体的評価によるハイブリッド型評価の導入による可視化についても検討中である。

以上、各項目について、まず教員が大卒の解説を行い、その後学生が実際の体験を発表する。

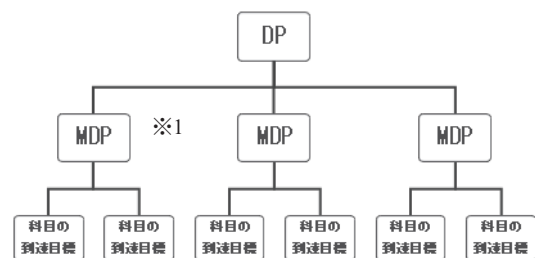


図1 到達目標とディプロマ・ポリシーの関係

※1 ミドルレベル・ディプロマ・ポリシーの略